

Ⅰ 学校教育目標 人権尊重の精神を基盤に、心豊かにたくましく生きる児童を育てる

Ⅱ 前年度に残された課題		Ⅲ 本年度の重点課題				Ⅳ 来年度に残された課題										
○規範意識の低下について…昨年度の児童アンケートの結果、2割の児童が、きまりをあまり守れていないと答えている。「名札を付けること」「廊下を歩くこと」など、基本的な約束事を守れるよう、全校で指導を徹底させる。 ○読書活動について…昨年度、学級文庫の充実や給食時間の読み聞かせ等の取組を通じて、本に親しみ児童の割合は増えているが、まだ37%の児童はあまり本を読んでいない状況である。今年度は、読書に取り組むきっかけとして、「読書タイム」を設けたり、お話をの機会を増やしする。 ○外遊びについて…外遊びに関しては、外遊びを積極的に行う児童がまだ80%に満たず、引き続き運動集会やクラス遊び等、身体を動かす機会を増やし、運動意欲の向上につなげる。		☆1 心の居場所づくり…個々の違いや多様性を認め合うとともに、自己肯定感を高め、心の居場所づくりを進める。 2 あいさつをする…いつでも誰にでも自ら進んであいさつをする習慣をつける。 3 すんではたらく…キャリア教育を充実させるとともに、清掃活動等に取り組む気持ちを高める。 4 生で働く知識・技能を高める…基礎基本の充実を図りながら質の高い学びを生み出す授業に取り組む。 5 出前授業や体験活動を通して学ぶ…学校行事や出前授業、体験活動などを通して主体的に学ぶ態度を育てる。 ☆6 進んで本に親しみ…本に親しみ習慣を身につけるための取組を進める。 7 楽しんで歌を歌う…みんなで元よく歌を歌い、明朗で晴れやかな心を育てる。 ☆8 楽しんで体を動かす…外遊びの習慣をつけ、進んで体を動かさそうとする気持ちを高める。				○規範意識の低下について…昨年度よりできた答えた児童は増えているが、「名札を付けること」「廊下を歩くこと」など、基本的な約束事を守れるよう、全校で指導を徹底させる。 ○外遊びについて…外遊びに関しては、昨年度より10ポイント上がっているが、まだ80%に満たず、引き続き運動集会やクラス遊び等、身体を動かす機会を増やし、運動意欲の向上につなげる。 ○授業研修について…引き続き授業研修に重点を置き、児童の学力向上につなげる。										
【1】（重点課題）評価項目	[2]具体的達成目標と評価指標		[3]自己評価		[4]外部アンケートの分析		[5]自己評価		[6]学校関係者評価							
	具体的に何を、いつまでに、どの水準まで、数値化		中間評価		児童生徒アンケート		保護者アンケート		最終評価（成果と課題）							
	評価日	7月20日	実施日	12月18日	実施日	1月25日	評価日	2月10日	評価日	2月17日						
1「心の居場所づくり」	公表日	4月6日	公表日	10月21日	公表日	3月18日	公表日	2月22日	公表日	2月19日						
	評価方法	□ ホームページ □ 文書配布 □ 説明会実施 □ その他	評価方法	□ ホームページ □ 文書配布 □ 説明会実施 □ その他	評価方法	□ ホームページ □ 文書配布 □ 説明会実施 □ その他	評価方法	□ ホームページ □ 文書配布 □ 説明会実施 □ その他	評価方法	□ ホームページ □ 文書配布 □ 説明会実施 □ その他						
	評価結果	○縦割り活動（たんぼぼタイム年間18回）を活性化させる。 ○人権参観を実施する。 ○教職員の児童理解（子どもを見つめる）を充実させるとともに、いじめの防止、早期発見に努める。また、レジリエンス、カウンセリングなど等の研修を実施する。 ○自己肯定感・自己有用感を高める取り組みを進める。 ○適応指導教室・通級指導教室職員と連携を深め、多方面から児童理解に努める。 ○「友達と仲良く過ごす」「学校が楽しい」についての児童アンケート結果を90%以上にする。	評価結果	○たんぼぼタイムで6年生を中心とした縦割り活動を行った。 ○人権参観、人権の研究授業等を行うことができた。 ○教師間の情報交換を日常的に行うと同時に、職員研修「子どもを見つめる」を行い、全職員で全校児童を見る体制づくりを行った。 ○不登校対応教室として「ほむかーるーん」を設置し、児童の居場所のひとつとした。 ○レジリエンスやカウンセリングの研修を実施し授業や生活指導に生かしている。 ○適応指導教室・通級指導教室職員と連携を深めた。	評価結果	○いじめや仲間外れがなく、友達と仲良く学校生活を送っている。』について、昨年度と同程度で、95%の児童が、おおむねではまると回答。 ○1人の気持ちを考えて発言したり、行動したりしている。』について、昨年度より3ポイント下がり、94%の保護者が、おおむねではまると回答。 ○「学校に来るのが楽しい。』について、昨年度と同程度の84%の児童が、おおむねではまると回答。	評価結果	○「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。』について、昨年度より4ポイント下がり76%の保護者が、おおむねではまると回答。 ○「お子どもは、楽しい学校生活を送っている。』について、昨年度より3ポイント下がり、94%の保護者が、おおむねではまると回答。 ○「学校は児童の心に寄り添った教育相談体制やきめ細やかな教育活動の充実に取り組んでいる。』について、昨年度と同程度の86%の保護者がおおむねではまると回答。	評価結果	○児童アンケートの項目①友達と仲良く学校生活を送っている②学校に来るのが楽しいについては、いずれも90%を超える値で、目標は達成できた。 ○保護者アンケートの「お子どもは楽しい」学校生活を送っている①の項目については94%が肯定的であるが、学校としては「そうではない」と答える保護者や児童に寄り添い、楽しいと思える教育活動を進めていかなければいけないと考える。 ○保護者アンケートの項目①いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の値が、2年前84%→昨年度80%→今年度76%と、年々下がっている。人権教育を重点課題とし、いじめのない学校づくりに取り組む本校としては、非常に重大なことを考える。下がった要因の分析と、手立てを考える必要がある。この項目に関しては、「わからない」と答えた割合が16%あり、学校の人権教育について、より積極的に周知していきたい。	評価結果	○地域の人と話す中で「二小が小規模校で良かった。細かくきつり見てくれている」という意見を聞いた。 ○縦割り活動は、子どもたちにとって非常に大切な活動である。 ○いじめは昔からのどの学校でもあるもの、学校に求めるのはいじめがなかった時の対応の早さや方法である。次の日から、子どもが笑顔で登校できるようにしてほしい。				
	2「あいさつをする」	評価結果	○生徒指導及び委員会等によるあいさつ運動を充実させる。 ○あいさつタウン・ネットワーク等と連携したあいさつ運動を実施する。 ○教師が率先して笑顔で自分から挨拶をする。 ○「すんではたらく」についての児童アンケート結果を90%以上にする。	評価結果	○校長と養護教諭、特別支援学級担任が昇降口で毎朝登校児童見守りを行うことを行った。あいさつをする児童の様子から、登校時の健康観察を行うことができた児童理解につながった。 ○あいさつをする児童としのい児童が固定化しつつあり、消極的な児童への働きかけを意識して行った。	評価結果	○自分から「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」などのあいさつをしている。』について、昨年度より3ポイント上がり、87%の児童が、おおむねではまると回答。 ○「お子どもは、おはようございます」「行ってきます」「ただいま」「ありがとう」「ごめんなさい」などの挨拶や言葉遣いができている。』について、昨年度と同程度で、90%の保護者が、おおむねではまると回答。	評価結果	○「お子どもは、おはようございます」「行ってきます」「ただいま」「ありがとう」「ごめんなさい」などの挨拶や言葉遣いができている。』について、昨年度と同程度で、90%の保護者が、おおむねではまると回答。 ○「お子どもは、おはようございます」「行ってきます」「ただいま」「ありがとう」「ごめんなさい」などの挨拶や言葉遣いができている。』について、昨年度と同程度で、90%の保護者が、おおむねではまると回答。	評価結果	○昨年度に比べあいさつをすると答えた児童の割合は増えている。自分から進んで元よく挨拶をする学年が増えていることが、学校全体に「あいさつしよう」という雰囲気を生み出していると感じる。 ○まだ小さい声での挨拶やお辞儀だけの児童もあるため、「心を届ける」という意識で挨拶をすることを浸透させていきたい。	評価結果	○年度初めに職員間で「自分から、笑顔で、教師自ら先頭に立ちあいさつをするようにする」ことを目標とした。 ○生活目標やポスターなどに常に意識できるような指導を行う。 ○委員会などを通じて、児童同士で啓発し合活動を行う。	評価結果	○自分の子どもがあいさつをだれにでもできるようにしたのは、「あいさつ」を重点課題にして取り組んでいる二小の環境が影響している。学校が好きなでいるな体験を楽しんでいる様子から、二小でよかったと思う。 ○あいさつをする児童の割合が増えているのは、地域のあいさつ運動の効果の表れである。	
3「すんではたらく」		評価結果	○キャリア教育を充実させる。 ○清掃活動、当番活動の指導を工夫し、それぞれを充実させる。 ○委員会活動を活性化させる。 ○栽培活動を工夫させるとともに、環境学習を継続して実施する。 ○学校ボランティアのかかわりの中で、ボランティア活動について学ぶとともに、年代を超えたつながりを作る。 ○縦割り活動の中で、自分の役割を自覚し、責任をもって仕事に取り組めるようにする。	評価結果	○各学年で計画を立て、日直や当番活動にしっかりと取り組む指導を進めた。 ○委員会活動を通じて、責任をもって役割を果たすことを学ばせた。 ○学校ボランティアとの関わりを通じ、幅広い年代との交流を持たせることができた。 ○学校行事や縦割り活動の中で、6年生が自覚と自信をもって学校のリーダーとして活躍できる場面を作った。	評価結果	○そうじの時間は、すみずみまできれいにしようとする努力している項目は、昨年度と同程度で、92%の児童が、おおむねではまると回答。 ○学習や係・委員会などのグループ活動に、友達と協力して取り組んでいる。』について、昨年度より3ポイント上がり、97%の児童が、おおむねではまると回答。 ○廊下歩行については77%の児童が、名札着用については85%の児童がおおむねではまると回答。	評価結果	○項目なし	評価結果	○掃除に関しては、少人数で役割分担が明確であるため、自分の持ち場については責任を果たすことができている。役割が決まっている場合でも、自分から進んで行動できるよう指導したい。 ○年度規範意識の低下がみられた名札に関しては、名札ホルダーを全校で統一し、教師が積極的に着用を呼び掛けるなどの手立てで改善した。 ○廊下歩行についてはまだ低い数値であり、手立てを考える必要がある。	評価結果	○年間・月間の目標を全校集会や学級指導で意識させ、規範意識の定着を行う。 ○クラスや個人で目標を設定し、進捗状況を自己評価させながら、達成のための努力を継続させる。 ○たんぼぼタイムなど縦割り活動において、高学年の児童の責任感リーダーとしての力が重要になっていく。憧れられる6年生を育てることを職員目標とし、6年生を鍛えしかりリーダーになるよう指導する。 ○廊下歩行に関しては、「落ち着いて学校生活をおくる指導」を行い意識を高めさせたい。	評価結果	○自分の子どもがあいさつをだれにでもできるようにしたのは、「あいさつ」を重点課題にして取り組んでいる二小の環境が影響している。学校が好きなでいるな体験を楽しんでいる様子から、二小でよかったと思う。 ○あいさつをする児童の割合が増えているのは、地域のあいさつ運動の効果の表れである。	
		4「生で働く知識・技能を高める」	評価結果	○オープン授業やチャレンジ授業、授業ミーティングに積極的に取り組むながら授業研修を行う。 ○個別指導及び放課後・夏休み学びタイムの指導を充実させる。 ○算数のプリント学習を通じて、家庭学習を充実させる。 ○「発表や学習活動に主体的に取り組んだ」についての児童アンケート結果を85%以上にする。 ○「発表や学習活動に主体的に取り組む」授業を行っているについての保護者アンケート結果を95%以上にする。	評価結果	○放課後学びタイム、夏休み学びタイムの実践を行い、学力の向上に努めた。 ○全教員がオープン授業やチャレンジ授業を行い、放課後研修会を持つ取組を進めている。	評価結果	○漢字や計算、与えられた課題に取り組むなど努力して学力を身に付けている。』について、昨年度と同程度で、91%の児童が、おおむねではまると回答。 ○自分の意見を発進んで発表している。』について、昨年度より2ポイント上がり、78%の児童が、おおむねではまると回答。 ○「タブレットや図鑑などを調べ積極的に学習している。』について、昨年度より8ポイント上がり86%の児童がおおむねではまると回答。	評価結果	○「学校は、わかりやすい授業を行っている。』について、昨年度より7ポイント下がり84%の保護者が、おおむねではまると回答。 ○「学校は、個に応じた支援や指導によって、基礎学力の定着を図っている。』について、昨年度より2ポイント下がり、78%の保護者が、おおむねではまると回答。	評価結果	○児童は意欲的に学習に取り組む、基礎基本を身につけようとしている傾向が見られる。 ○発表については、昨年度より2ポイント上がっているが、まだ78%と80%を下回る値で、4人に1人が発表に対して抵抗感を示している。児童が発言したくなるような教材や発問を工夫したい。 ○放課後学びタイムの参加率が6割を超え、参加している児童は意欲的に課題に取り組んでいる。基本的な学習に向かう姿勢はできていると考える。 ○夏休み学びタイムも参加率が高く、休中にも関わらず意欲的に参加している。多目的室でみんなでも取り組むので、学習する雰囲気が高まり、集中して取り組むことができている。 ○すべての教員がオープン授業・チャレンジ授業を実施した。教科を指定せず、教員個人の学びに応じた授業を実施し、ミニ研修会で意見を述べ合った。職員研修として有効であった。	評価結果	○今後も分かりやすい授業を目指すとともに、主体的に学習していけるよう、学習指導のあり方を工夫していきたい。 ○放課後学びタイム・夏休み学びタイムを生かしながら基礎基本を定着させ、学力の向上を目指していく。 ○家庭学習が定着していない児童に対して、家庭としっかりと連絡を取り合い、学習の習慣をつけるよう取り組むとともに、意欲的に取り組む工夫したい。 ○オープン授業・チャレンジ授業を来年度も実施し、授業方向上に努める。	評価結果	○授業や学力に対する保護者アンケートは参考程度に考えてくれればよい。
			5「出前授業や体験活動を通して学ぶ」	評価結果	○学校行事や出前授業、体験活動を通じた取り組みなど、その内容の充実を図る。 ○目標を達成する経験を通して自己肯定感を高める指導に取り組む。 ○「出前授業・体験学習」各学年5回以上実施する。『主体的に学習する』についての児童アンケート結果を90%以上にする。	評価結果	○各学年で体験活動、出前授業の計画を立て、順次進めることができている。活動を通して、個別的に課題を設定し、学びを深めることができている。 ○今年度に応じて、タブレットの8ポイントより86%の児童がおおむねではまると回答。 ○出前授業・体験学習について、各学年10回以上実施している。	評価結果	○「わからない」ところを先生に聞いたり、タブレットや図鑑などに積極的に学習している。』について、昨年度と同程度で、98%の保護者が、おおむねではまると回答。 ○「学校は、社会見学や出前授業など体験的な学習を積極的に取り入れている。』について、昨年度と同程度で、98%の保護者が、おおむねではまると回答。 ○「年齢差や情報機器の扱いの得手不得手がある中、研修会を通して学び合うことで、技能を高めながら指導にあたる」ことができている。	評価結果	○わからないところを調べるなど、積極的に学習を進める児童の割合が86%であった。図鑑やタブレットなどを使う場面を増やすことで、調べ学習の習慣を身に付けさせたい。 ○今年度も社会見学・出前授業・体験学習を取り入れていきたい。さらに、より豊かに充実したものにしよう。学習内容とのバランスを考慮しながら、効果的に実施していきたい。 ○ICTの活用について、職員研修等で共有しながらすすめていきたい。	評価結果	○体験活動をよく行っているのは子どもにとって良い。思い出作りになる。小さい時の体験が、将来に生きている。小学校や中学校での職業体験が重要である。 ○6年生の公園清掃ボランティアの活動が印象に残っている。どの子も一生懸命働き、良い意味で驚いた。ウインドベルの体験にも熱心に取り組む姿があり、楽しかった。 ○ボランティアの数が他校と比べて非常に多い。子どもたちも慣れてきて、名前を呼んで話しかけてくれるようになった。 ○ボランティアをされていて、子どもたちにとって課題が難しいのではと思う場面があった。児童の発達段階に合わせた指導を行ってほしい。			

6 「進んで本に親しむ」	○学級文庫を整理し、充実させる。 ○図書館等と連携し、読み聞かせを充実させる。 ○学校司書中心に学校図書館を整理し、蔵書を充実させる。 ○読書タイムを設定し、全校で読書に取り組む。 ○給食時間に職員が継続して読み聞かせを行う。 ◎「すすんで本を読んだ」についての児童・保護者アンケート結果を80％以上にする。	○低学年は週1回の図書の時間を設け、学校司書による読み聞かせを行っている。 ○1・2年はクラス担任が毎日、1・2・3年は生駒お話会の方が学期に1回に、またすべての学年で地域ボランティアが学期に1回読み聞かせを行っている。 ○学校司書による読書指導も繰り返し行われているので、さらに、読書に向かう気持ちを高める指導を進めていきたい。 ○給食時間に、児童・職員・司書が読み聞かせを行っている。	○「自分から進んで、たくさん本を読んでいる」について昨年度より21ポイント上がり83％の児童がおおむねあてはまると回答。	○「お子さんは、進んで本を読むなど読書の習慣が身に付いている。」について、昨年度より1ポイント下がり55％の保護者が、おおむねあてはまると回答。	B ○読書タイムや読み聞かせ、学級文庫の充実、図書委員会の取組が、児童の読書意欲の向上につながった。中でも、全校一斉に本を読む「読書タイム」は教師も児童も楽しみに感じられる時間となっている。 ○学校司書の取組で「保護者の子ども時代に読んだ本アンケート」や読書だよりの発行、季節に応じた本の紹介などを行い、幅広く本に親しむ機会を提供していただいた。	○これからも読み聞かせの充実や学校司書の取組を進め、本の魅力を伝えていきたい。 ○家庭でも、読書の習慣が高まるように取り組んでくださるようお願いをしていくことが大事であると考えている。 ○地域ボランティア・生駒お話の会・保護者に、読み聞かせをしていただく。
7 「楽しんで歌を歌う」	○今日の歌を設定し、全校朝の会で歌唱し、各教室でも取り組む。 ○学年交流を行い、いろいろな音楽に触れる機会を作る。 ○1年に1回、音楽参観を実施する。 ◎「合唱が楽しい」についての児童アンケート結果を90％以上にする。	○大きな声で歌唱することや鍵盤ハーモニカやリコーダーを長時間吹くことができ、指導が徹底できるようになった。 ○全学年で音楽参観を実施し、異学年交流を行った。 ○今日の歌を練習し、全校朝の会で歌った。	○「音楽の時間は、楽しく合唱や合奏をしている」について、昨年度より8ポイント上がり、94％の児童が、おおむねあてはまると回答。	○項目なし	B ○制限なく歌唱したり演奏したりできるようになったことで、より音楽の授業を楽しく感じる児童が増えた。 ○全学年音楽参観を実施し、発表に向けて練習に取り組む中で、学年全体で音楽を作り上げる楽しさを味わわせることができた。 ○学年交流を行うことで、下学年に「あんな演奏ができるようになった」という目標を持たせることができた。	○来年度も「今日の歌」を設定し、全校朝の会で歌う。 ○異学年交流を行い、いろいろな音楽に触れる機会を作る。 ○1年に1回、音楽参観を実施する。
8 「楽しんで体を動かす」	○体力向上推進プランニングシート及びスポーツテストの結果等を活用した取組を進める。 ○投力・跳躍力を伸ばすための取組を行う。 ○スポーツタイムや朝の体幹作り体操を実施する。 ○委員会によるスポーツ大会等を充実させるなど、児童に対して外遊びを奨励する。 ○教師が外遊びをするように声をかけるとともに、率先して体を動かす。 ◎「外遊びをする」についての児童アンケート結果を80％以上にする。	○朝の体幹作り体操を実施している。 ○シュート大会などの体育委員会の取組が順調に進んでいる。さらに外遊びが楽しくなるような取り組みを進めていきたい。 ○毎週金曜日の昼休みにスポーツタイムを設定し、職員・児童全員外遊びを行っている。	○「運動することは楽しいと思う。」について、昨年度より7ポイント上がり、96％の児童が、おおむねあてはまると回答。 ○「体育の学習に一生懸命取り組んでいる。」について、昨年度と同程度で、96％の児童が、おおむねあてはまると回答。 ○「休み時間にはできるだけ外遊びをしている。」について、昨年度と同程度の、73％の児童が、おおむねあてはまると回答。	○「学校は、児童の体力を高めるための取組を行っている。」について、昨年度より2ポイント上がり、92％の保護者が、おおむねあてはまると回答。 ○「お子さんは、進んで体を動かしたり、運動に取り組んだりしている。」について、昨年度より3ポイント下がり、75％の保護者が、おおむねあてはまると回答。	B ○90％を超える児童が体育の授業に積極的に取り組み、運動することは楽しいと感じているが、休み時間以外で遊ぶ児童は限られている。全員が外に出て体を動かす取組を考えたい。 ○毎週金曜日をスポーツタイムに設定しクラス全員が担任と一緒に外遊びをする日になっている。人数が増えることで、運動が苦手な児童も安心してゲームに参加できている。 ○朝の体幹トレーニングの動きについて、今年度は投力の向上を目指す動きを取り入れるなど、リニューアルした。	○できるだけ外遊びがしたくなる環境を整えるなど、体力向上に取り組んでいきたい。ボールなどの道具や遊びたくなるような掲示など工夫して行きたい。 ○運動集会に向け、クラス全員参加で取組を進める。 ○スポーツタイムの取組を継続して行う。 ○食育や健康教育に取り組んでいく。家庭でも食育を意識してもらえよう啓蒙していく必要がある。